隔絶された場所で⑦

家族を捜して　「どこにいるの？ 早く帰ってきて」

▲ベイサイドアリーナの玄関に貼り出されている遺体の安置情報を祈るような気持ちで見つめる住民たちがいた。

写真提供　南三陸町社会福祉協議会

あの日、いつものように家を出たきり会えなくなった家族が、今もどこかで生きているのではないだろうか。家族たちは一縷の望みを胸に、来る日も来る日も避難所を捜し回った。

志津川地区のベイサイドアリーナ内にある文化交流ホールは遺体安置所となり、連日、家族を捜す人々が訪れた。全国から駆けつけた消防、警察、自衛隊によって、収容された遺体の発見場所や特徴などの情報が建物の入口に貼り出された。生きていてほしいと願いつつ、その貼り紙を食い入るように見つめる住民たちの姿があった。

遺体の名簿に家族の名前を見つけた人々に深い悲しみがにじむ。「帰ってきてくれてよかった」と誰かがつぶやく。行方不明の家族を捜し続け、待ち続ける苦しさは、遺族にしかわからない。

今もなお 210 人の住民が行方不明となっている。